西白山台小

# 運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもの育成
## ～自己の変容を実感できる授業づくりの工夫を通して～

（３年計画の３年次）

校長　　加藤　慎一

### １　研究主題について

本校では、教育目標として「心豊かに　たくましく　ともに学び合う子」、努力目標として「よく聴き　よく考える子」「きまりを守り　思いやりをもつ子」「進んで体をきたえる子」を掲げている。今年度はこれらの目標を達成するため、「自分の考えを豊かに表現し、ともに学び合う授業」や「自尊感情や自己有用感を高める指導の充実」、「自己の体力向上と健康維持を意識して日々努力する態度の育成」に重点的に取り組み、「頭も心も体もたくましい子ども」の育成を目指すことにした。そのための教育活動を展開していくにあたり、「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成すること」を目標としている体育科の授業を中核に据えて研究を進め、他教科・領域を含めた日常の授業に反映させることが効果的であると考えた。

これまでの体育科を中核に据えて取り組んだ５年間の研究では、「組み合わせ単元」の有効性を実証し、教員の授業マネジメント力を向上させることができた。昨年度は、体育科における見通しと振り返りを生かした指導の工夫、１人１台端末を効果的に活用した体育の授業についての研究に取り組んだ。その結果、授業の導入場面で見通しをもたせることで、運動が苦手な児童も意欲的に取り組むことができるようになり、授業の展開・終末場面で児童の実態や活動内容に適した振り返りを行うことで、児童相互の関わりが生まれ、運動に対する理解を深めることができた。また、１人１台端末の動画撮影機能を有効に活用することにより、課題について具体的に話し合う力や、学習意欲を高めることにつながった。しかし、見通しをもたせることに注力した結果、学習課題が児童が解決したいこととずれてしまうことがあり、振り返り活動の具体的な方法について十分に吟味することができなかった。１人１台端末の活用も、運動量確保という課題が挙がり、日常的な活用には至らなかった。

そこで、これらの成果と課題から、今年度も課題設定と振り返りの場面での教師の働きかけについての研究を進めていく。まずは、児童に問いをもたせ、主体的に解決したくなるような課題設定や発問を工夫する。児童の実態に応じた分かりやすいものを提示できるようにしたい。そして、展開部で課題解決に取り組んだ後は、児童が自己の変容を実感できる振り返りを行う。場の設定や観点の示し方、発問の吟味などの工夫を行うことで、児童の学びを深め、体育の学習においても「わかった！できた！身についた！」を実感させたい。これらと並行して、児童の学習意欲を向上させるような１人１台端末の効果的な活用を研究することで、運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもを育成したいと考える。

### ２　研究のねらい

運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもを育てるため、課題設定や振り返りの場面でどのように教師の働きかけを工夫すれば児童が自己の変容を実感することができるのかを、日常の授業実践を通して明らかにしていく。

### ３　研究仮説

課題設定や振り返りの場面における教師の働きかけを工夫し、児童が自己の変容を実感できる授業づくりを行うことで、運動の楽しさや喜びを味わい、自らを高める子どもを育成できる。

### ４　研究内容

(1) 児童が解決したくなる課題設定の工夫

(2) 児童が自己の変容を実感できる振り返りの工夫

(3) 体育の授業における１人１台端末の効果的な活用

## ５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

| 月 | 日 | 学年・題材名・授業者・助言者 |
|---|---|---|
| 5 | 25 | 第１回授業研究【高学年ブロック・要請訪問】<br>６学年「ハードル走」　授業者　教諭　外舘　季和<br>助言者　八戸市教育委員会　教育指導課　主任指導主事　竹井　亮　氏 |
| 6 | 29 | 第１回研究報告会【高学年ブロック】　５学年報告者　教諭　林　義隆<br>６学年報告者　教諭　外舘　季和 |
| 9 | 7 | 第２回授業研究【中学年ブロック】<br>４学年「走・跳の運動（小型ハードル走)」　授業者　教諭　小笠原　夏実 |
| 9 | 14 | 第２回研究報告会【中学年ブロック】　３学年報告者　教諭　深澤　美加子<br>４学年報告者　教諭　小笠原　夏実 |
| 12 | 7 | 第３回授業研究【低学年ブロック】<br>１学年　「にんじゃになって　とびばこあそび（器械・器具を使っての運動遊び)」<br>授業者　教諭　高谷　久美子 |
| 1 | 12 | 第３回研究報告会【低学年ブロック】　１学年報告者　教諭　高谷　久美子<br>２学年報告者　教諭　佐藤　光子 |

(2) 一般研修

| 月 | 日 | 内容・講師　等 |
|---|---|---|
| 7 | 6 | 「算数科における指導法～子どもと教師が創る算数を目指して～」<br>講師　総合教育センター副所長兼主任指導主事　松橋　祐哉　氏 |
| 8 | 23 | 「みんなで使える！１人１台端末活用」<br>講師　旭ヶ丘小学校　教諭　佐々木　俊介　氏 |
| 8 | 31 | 県学習状況調査の分析・考察 |
| 10 | 19 | 特別支援学級授業公開<br>授業者　教諭　夏坂　美保子　教諭　山下　由美子　講師　湊　美穂<br>特別な支援を要する児童の対応について<br>講師　こども支援センター主任指導主事　小堀　祐二　氏 |

## ６　研究の成果

(1) 手本となる映像資料や前時の振り返りを活用したり、児童の思考を揺さぶる発問を工夫したりすることにより、児童はよく考え、解決すべき問いを見付けることができた。また、問いを共有させることにより、仲間と協力し、課題を解決しながら運動を楽しむ姿が見られた。

(2) 観点を与えて振り返らせたり、１単位時間の中で随時振り返る場面を設定したりすることにより、自己の変容をより実感させることができた。また、ワークシートやノートを活用し、教師がフィードバックを行うことにより、次時への意欲を高めさせることができた。

(3) １人１台端末を効果的に活用して児童に自分の動きを確認・修正させることが、運動技能の向上や協働的な学びにつながることが分かった。

## ７　研究の課題

(1) 考えを発言する児童が限られており、それぞれの考えを全体で共有できているとは言い難い。どの児童も自分の考えを言語化できるような手立てが必要である。

(2) １人１台端末の活用方法についての検証が不十分だった。普段の授業から積極的に端末を使用し、指導者側が様々な場面で活用できるようにしておくことが必要である。

（記入者　外舘　季和）